

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 09-011

PDCA	事務事業名	災害対策資機材整備事業	部課等名	総務部 防災交通課 防災減災担当	担当	瀧本	
					内線等	287	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章：第4章 安全で快適に住み続けられるまち 節：第1節 安全・安心な社会の形成 基本施策：1. 防災対策 単位施策：(1) 災害時に備えた施設整備・対策の推進 個別施策：②資機材等の整備					
	根拠法令等	災害対策基本法第49条					
	対象・目的	市民の生命・身体を守り、併せて避難所運営を支援するため、備蓄食糧や資機材等を配備し、災害による被害の軽減を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	必要となる災害用備蓄食糧及び資機材を確保し、適正に管理する。食料並びに資機材は、各避難所への分散備蓄に努める。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
		①はそりセット整備	—	—	5	か所	
		②					
		③					
		事業費	8,403	8,894	8,788	千円	
		人件費	2,030	2,186	3,105	千円	
		総事業費	10,433	11,080	11,893	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
		①はそりセット整備コスト	—	—	367	千円	
	成 果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		①はそりセット整備数（避難所43か所×1個）	実績値	—	—	5	か所
			目標値	—	—	5	
			実績値				
			目標値				
実績値							
目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減余地 ない			
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	※対象・手段の変更			
		③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地 ない			
	事業の評価・課題	B					
		新たに避難所運営に必要な資機材として炊き出し用のはそりセットの配備を開始した。整備したはそりセットについては、令和元年11月16日、17日に行われた半田市総合防災訓練のメイン会場となる半田中学校において地域住民が実際に活用し、炊き出しを実施した。 また、平成31年3月頃から国内で販売が開始された液体ミルクの備蓄を速やかに行うことで、要配慮者用の備蓄を充実させた。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	市内各所で実施している避難所開設・運営訓練の検証から現行の資機材の購入計画の見直しを図り、実情に沿った資機材の購入に努める。今後は、要配慮者用のスロープや公衆衛生用品として歯ブラシ、うがい薬を新たに備蓄し、避難所の環境整備を実施していく。					
	令和2年度の目標	成果指標			目標値	単位	
		①はそりセット整備数（避難所43か所×1個）			13	か所	